

## ホームページ掲載内容

### 間質性変化と放射線肺臓炎の関連性についての研究

研究責任者：浦安病院放射線科 齋藤アンネ優子  
研究分担者：浦安病院放射線科 宮崎秀明  
浦安病院放射線科 君塚孝雄

#### 研究の意義と目的：

肺に対して放射線療法を行うと、肺炎になってしまう患者さんが一定の確率でいます。

肺炎には肺泡性肺炎と間質性肺炎の2種類があります。肺泡性肺炎は空気中の細菌などを吸い込むことによって、肺内の肺泡という組織に炎症が起こって、生じるものであり、世間一般的に呼ばれている肺炎はほとんどがこちらになります。間質性肺炎は肺泡を取り囲んでいる周りの組織に炎症が生じたもので、薬剤、膠原病、放射線などにより生じるものです。間質性肺炎で肺に生じる変化は間質性変化と呼ばれています。

今までいろいろな研究がなされてきており、肺に間質性変化があると、肺炎になってしまう確率が、間質性変化が無い人と比べると高くなってしまっていることがわかっています。

そのため、肺に間質性変化があれば、放射線療法を受けられない場合があります。

肺の間質性変化にも軽度のものから重度のものまでありますが、どの程度の間質性変化から、放射線肺臓炎が発生する確率が高くなってしまっているのかは現時点ではわかっていません。

そこでどの程度の間質性変化があれば、放射線肺臓炎になる危険度が上がるのかを調べる必要があります。

このことを調べるために過去5年分の肺がん患者さんのデータを調査し、どの程度の間質性変化の重症度で放射線肺臓炎の発生率が上がってくるかを見極めます。

間質性の変化の中でも、放射線肺臓炎のリスクをあげないものを見つけ出し、今まで間質性変化があるという理由だけで放射線療法を受けられず、有効な治療を諦めざるを得なかった患者さんの数を減らすことがこの研究の目的です。

#### 観察研究の方法：

本研究の対象となる患者さんは、肺癌の方で、西暦2011年11月1日から西暦2017年11月30日の間に順天堂浦安病院放射線科で肺に対する放射線治療を受けた方100名程度です。

利用させていただくカルテ情報は下記です。

診断名、年齢、性別、喫煙数、症状、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査）、治療内容、合併症の有無

研究実施期間：西暦 2017 年 10 月 1 日 ～ 西暦 2019 年 3 月 31 日

被験者の保護：

本研究に関係するすべての研究者は、ヘルシンキ宣言（2013 年 10 月 WMA フォルタレザ総会[ブラジル]で修正版）及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（2017 年 2 月 28 日改正、同年 5 月 30 日施行）に従って本研究を実施します。

個人情報の保護：

患者さんの情報は、個人を特定できる情報とは切り離れた上で使用します。  
また、研究成果を学会や学術雑誌で発表しますが、患者さん個人を特定できる個人情報は含みません。

利益相反について：

本研究は、放射線科の研究費によって実施しておりますので、外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画し実施するものです。従いまして、研究結果および解析等に影響を及ぼすことはありません。また、本研究の責任医師および分担医師には開示すべき利益相反はありません。

本研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報は利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先：

順天堂大学医学部附属浦安病院 放射線科  
電話：047-353-3111 （内線）3267  
研究責任者：齋藤アンネ優子